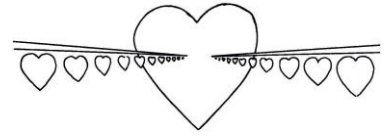




NO WAR、対話、理解、共存の道

石原つや子



○肥えた牛を食べて憎み合うよりは青菜の食事で愛し合うほうがよい。

(旧約聖書 箴言 15:16)

イラスト:大城旋律(孫)

○一人で成り立つ自分はない。自分を見つめるだけの人間は滅ぶ。他者との
関係において自分が成り立っている。(ペシャワール会 故:中村哲)

☆声を上げ続ける私たち

「♪ 辺野古の海は美しく、優しく揺れている。ジュゴンも泳ぐこの海をあなたと守りたい。

♪ 辺野古の海は母のよう。サンゴも揺れている。アジサシ達も飛んでいる。この海を守りたい。

♪ 青く澄んだこの海、緑萌えるあの森、命はぐくむ故郷をあなたと守りたい。」

優しく美しいこのメロディーのこの歌を歌いながら抗議の声を上げています。

今はもうジュゴンもどこかへ行ってしまいました。アジサシたちも飛んで来なくなりました。沢山のサンゴも死んでしまいました。母なる辺野古の海には母の涙いっぱい潮が満ちてきます。歌っているとたまらない気持ちになって声をふり絞って抗議するのです。埋め立てはやめて下さい。軍事基地を造ることをやめて下さい。埋め立てたらもう二度とあの海は元に戻りません。宝の海、命の海、私たちの命を育ててくれた大切な辺野古の海を埋め立てないで下さい。この海に軍事基地を造ることは最も愚かな事、絶対にしてはいけない悪なのです、軍事基地は戦争につながるもの、政府は戦争を起こさせないため、平和を守るための抑止力だと言うけれど、それはまっ赤な嘘、だまされてはいけません。私たちは人間として当然のことを人間だから訴え続けているのです。防衛局の人も警察の人も警備員の人もみんな心を持った同じ人間ではありませんか。一緒に考えて下さい。次世代の子供達のために宝の海を守り残していきましょう。心に訴える言葉を繰り返し繰り返し訴え続けます。土砂を積載したダンプは牛歩で抗議する私達を尻目に土砂を搬入し続けています。

♪「青い海は青いままで子供らに残したい、燃える沖縄の海、地獄の血の中で父の母の兄弟たちの命の叫びを胸に抱いて、命どう宝、命どう宝(つや子改詩)」

広島あの青い空の歌の二番を改詩して歌っています。あの絶望的な地上戦で亡くなられた何万もの魂たちの叫びが聞こえてくるように感じ、私たちの抗議行動は目には見えなくても魂たちの叫びと一体となった行動であることを実感するのです。今を生きる私たちが叫ばなくては魂たちに対して申し訳ないではありませんか。地獄の血の中で亡くなった魂たちと今つながる私たちの命は、次世代そしてその先の世代へとつながっている命なのです。だから今、悪に対して声を上げ続けなくてはなりません。人間だから、人間として今生きているから人間としての当然の声を先々のつながる命のために叫び続けなくてはならないのです。

☆何故人間は戦争するのでしょうか

この世界から戦争がなくなる時は来るのでしょうか、と友人に問いました。「来ないと思う、滅びと絶望しかない、そこまで考えなくては何も分からないし何も始まらない」と。絶望するしかない人間の現実を直視

し、絶望から希望の光を見出すならそこから何かが生れ、何かが始まるでしょう。中途半端な誤魔化しからは何も本質は見えず希望も見えません。動物は群のリーダー争いをしますが、裸で戦い武器は持ちません、負けを認めた方は退き、決して殺し合いはしません。人間だけが武器を持ち殺し合いをします。IT の時代となり武器は進化し、人間が作った最性能の武器が人類を滅ぼすかもしれない危機の時代を迎えています。科学技術の限りなき進歩は決して人間を幸せにはしないでしょう。

☆死の商人の国

私が最も恐れてきたことは、日本が死の商人の国になることでした。アメリカを見たら一目瞭然、軍需産業は常に戦争の危機を生み出し、武器輸出により富を得ようとします。一旦死の商人の国になったら、その暗黒の泥沼から抜け出すことは出来ません。2004年に私の恩師、高橋三郎（独立伝道者）は非常な危機感を持って語っていました。この年はアテネオリンピックで湧き立っていたその時に「武器の日米共同生産検討」という報道がなされたというのです。以下師の言葉を引用致します。

『そもそもアメリカは連邦政府予算の50,5%を軍事費に充てるという常軌を逸した巨大軍事国家で兵器の研究開発と生産に国家の総力を挙げてきました。日本は日米同盟を根幹として進むという方針を立て憲法9条を除くことによってアメリカと共に軍事行動を起こす道を開こうと考えたのです。——「武器の日米共同生産」を実現したならば、日本の経済はアメリカの防衛産業システムの中に組み込まれ、もはやそこから離脱できない籠の鳥となり、否応なしにアメリカと運命を共にする隷属国家となるほかないでしょう。——今まで禁じてきた武器輸出までも検討されています。それは日本が死の商人の道へと転落することであり、戦争による殺し合いが各方面に広がっていくことによって兵器産業が巨利を貪るという許し難き犯罪を国家存立の基盤とすることにあります。もはや抜け出せない必然の枠組みに巻き込まれ死に至る道に踏み込まうとする危機を一体誰が見抜いたでしょうか。神より臨むこの重大な問いかけを私共は全存在を挙げて受け止めなければなりません。』

2004年に師のこの言葉を読んだ時の衝撃と恐怖を私は忘れることが出来ませんでした。そして2023年の今、日本はどうなっていますか。師の危機感と警告の通り、もはや抜け出せない死の商人の国となり、憲法9条を捨ててアメリカの隷属国家となり果ててしまいました。その何よりの証拠が今起きている軍事力拡大とそのすべての事象なのです。私は今、心の底から国民一人一人に問いたいのです。本当にこのような軍事国家になっても良いのですか。こんな国で子供を産み育てたいと思いますか。日本の前途は暗く希望の光は見えてきません。私は歌います——♪戦争は人間のしわざ、平和は正義のわざ、愛のみどり、剣はすきに槍はかまに打ちなおそう、戦争は愚かなこと、命どう宝命どう宝、与えられたあらゆるものの命を大切にしよう、弓を砕き、槍も盾も焼きはらおう——このように歌い祈ることは空しく意味のないことでしょうか。私は決してそうではないと思います。敬愛する石原絹子さん（沖縄戦で家族全員を失った体験者、平和へのメッセンジャー）はいつも言うておりました。「戦争をするのも人間だけど、戦争をやめることが出来るのも人間である。」と。心折れそうになりながら、辺野古で座り込み抗議を続ける私たちは決して諦めてしまうことが出来ないのです。平和をつくことが出来るのも人間だからこそ、信じて、愛して叫び続けるしかないのです。こんな馬鹿な人間が、日本中にいっぱいになった時にきっと平和は実現することでしょう。

☆絶対非戦論 ——「戦争のために捨てる生命を戦争をなくすために捨てよう」——

この文章を小谷純一（愛農会、愛農高校の創設者）は 1951年に発表しています。

「戦争を地上から撲滅する道はただ一つである。戦争が神のみこころに反することを自覚せる者が打って一丸となって戦争そのものをなくすために生命をかけて戦うこと以外にない。敵を殺すために死ぬのではなく戦争そのものを地上からなくすために死ぬのである。日本再武装絶対反対の非戦主義こそ私たちの歩むべき唯一つの大道である。」

○軍拡の大波寄せる寒波かな

○寒風は憲法 9 条に帰れと叫ぶ声

○軍拡は抑止力、戦争しないための方策と嘘の言葉を信じる民の愚かさよ

○悪はイデオロギーを越えて共通の道を歩む（ヤマヒデ）

ウクライナの大統領は「武器を下さい」と米国、西側諸国に懇願している。西側諸国は苦悩の内に武器提供、支援を続けている。戦争はいつ終わるのか先が見えない泥沼にはまってしまった。IT の最高技術によって生み出した高度な戦車やミサイルなどの武器が人間に襲いかかり人を殺している。正義はどこにもない、ただ戦争という人間の罪悪だけが人類を地球を破滅へと導いている。武器を持たない動物たちを見習おう。武器を捨てよう。死の商人の国は軍事による巨額な利益を放棄しよう。憲法 9 条を世界の憲法にしよう。人と人、国と国とは対話しよう。お互いの違いを理解し合い、愛と平和を求めて決して諦めずに対話を重ねよう。私は **NOWAR、命どう宝、対話、理解、共存** のプラカードを掲げて抗議行動の現場に立っている。対話が出来る人間、人を愛することの出来る人間を信じたい。先達の師の言葉を今、魂に刻みたいと思う。

☆台湾有事——米ソの冷戦時代が終り世界は平和に向うと思ったのに、死の商人の国アメリカは新たな冷戦、米中対立を作り出し、アメリカ隷属国家なる日本は利用され最前線に立たされるのです。沖縄本島、宮古、石垣に配備されるのは敵基地攻撃の長距離弾道ミサイルです。専守防衛のミサイルとは違うのです。台湾有事となれば、真っ先に攻撃されるのは嘉手納空軍基地であり沖縄なのです。戦争を起こさせないために沖縄は何か出来るのか？孫崎亨氏は「沖縄は中国との対話の核になれる」と呼びかけて下さいました。与那国の町民もシェルターを国に求めるような愚かなことをせず、お隣りの台湾の人々との対話交流を深め、台湾の人々と共に台湾有事を起こさないための努力をすべきです。尖閣諸島を国際自然保護区にする運動を沖縄、台湾とで進めたいものです。

☆私たちの心配、不安

○土地規制法がいよいよ施行されます。その際、私たちの辺野古テントが強制撤去されるのではないかと、その戦いへの覚悟を持って今から備えなくてはなりません。

OPFOS PFOA（有機フッ素化合物）による水と環境全般への汚染は、今や日本全土、世界、地球規模での深刻な汚染として注目されるようになりました。基地に取り囲まれた沖縄はどうしたらこの汚染から身を守れるのでしょうか。未来の子供たちのために、全てを明らかにして真正面から取り組んでいけますように願います。

○与那国島では、台湾有事に備えシェルター設置を政府に要望しました。その内に石垣島、宮古島など各地に同じ動きが生じることでしょう。有事など起こさせないためにこそ対話外交を重ね、民間交流を豊かにしていきたいと思います。

☆うるま島ぐるみの活動

○熱心な姉妹の発案によるうるまが標的にされるミサイル配備反対のポスターを1000枚余り手作りして、市内のあちこちの電柱に取り付けました。住民の目に留まり、住民の関心と危機感を喚起し、平和を考えるきっかけになることを願っています。

○うるまの勝連半島は島々が連なり、美しい海が広がり豊かな漁場があります。この漁場の上空で米軍が吊り下げ訓練をするというのです。海上には28隻の船、もずくの養殖場もあります。上空からヘリコプターを吊り下げることは危険な訓練です。うるま島ぐるみの仲間達は反対の抗議行動を頑張り、その結果当日の訓練は中止になりました。右翼の市長は「国が決めたことだから」とすべて容認の姿勢です。私たちは市長との対話を求め要請行動もしています。

○抗議行動行きのマイクロバス（毎週火と木）の中での歌やスピーチの時間を大切に、一人ではない共につながら力の結束を大切にしています。そんな中で80代の元小学校教師だったTさんが語って下さいました。『ベトナム戦争当時のこと、軍用機の爆音があまりにひどくて授業が中断されることが重なるので、仕方なく大声を出して授業するしかありませんでした。その結果喉を傷めてしまい、それ以来きれいな声が出なくなりました。』そしてその当時のいろいろの闘争の中で歌った歌を歌って下さいました。

沖縄をつくる歌(題)

沖縄、沖縄 はてしない海とこの大空は世界を結ぶかけ橋だ、緑の沖縄、豊かな沖縄、みんなでそれをとり返そう、明るい明るい沖縄を、沖縄を

戦争、そして米国統治下の沖縄、基地闘争、復帰闘争、首席公選、国政参加等々、多くの闘争を重ねてきた沖縄の歴史、そして2023年の今、何故また沖縄は切り捨てられるのでしょうか。ミサイル基地が造られる今、二度と戦争してはならないと叫ぶ沖縄の声が日本中の人々の声となり、平和への発信地となりますようにみんなで頑張っています。

お願い

○署名に御協力下さい —— 辺野古新基地建設の断念を求める請願書

○辺野古基金のための活動に御協力下さい。

辺野古基金のために 御協力感謝致します。

○つながるかうつぐみの会（大野悦子）

リサイクル着物からの作品：（*大・小の手提げ袋*マイバックなど）

○あみの会（山田博子）

リサイクル系の作品：（*各種帽子*アームカバー*ルームシューズなど）

※リサイクル着物、糸と不要になったセーターなどの提供と作品販売に御協力下さい。

提供下さる方は必ずご連絡下さい。 両窓口：石原つや子

〈連絡先〉〒904-1115 うるま市石川伊波 1180-5 石原つや子

携帯：090-4471-1942 Email：yuuwanoie@tg7.so-net.ne.jp

〈振込先〉ゆうちょ銀行 記号：12260 番号：12650271 イシハラツヤコ

